

御豊瀬小学校の再生

1151008 横山 裕人

高知工科大学 システム工学部 建築・都市デザイン専攻

1. 背景

現在、過疎化や人口減少により小学校の廃校が進み問題となっている。全国での廃校数は平成4年度から現在まで約6800校が廃校、県庁所在地である高知市でも初の廃校が決まり、長浜の御豊瀬小学校が2012年3月20日、135年の歴史に幕をおろした。

廃校となった敷地は再利用されている場合もあるが、まだまだ手つかずのままが多い。御豊瀬小学校も例外ではなく、校舎は利用されておらず休日に体育館が利用されているだけである。本来の小学校は地域の中心の場であり、地域住民の思い入れも深い場所であると思われる。しかし、このままでは廃墟となっていくだけで、本来の地域の中心としての役割を失ってしまう。

人口減少が進んでいるなかでも、育児施設の不足による待機児童の増加や、高齢化による高齢者施設の不足が問題としてあげられている。

こうした背景を受けて、廃校となった敷地や建物に、育児施設や高齢者施設を取り入れ、新たに地域の中心施設としてどのように再利用できるかと思ったのが本計画の動機である。

2. 目的

御豊瀬小学校を再利用するため

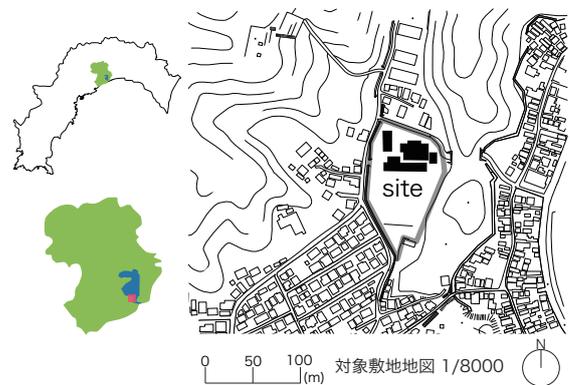
- ・高齢者が利用する「おとなの学校」(デイサービス)
- ・幼児のための保育園
- ・地域住民のための施設として診療所や多目的スペース

以上の施設を計画し、各世代の地域住民を結び付け新たに『地域の中心』として根付かせる。



3. 敷地

- ・高知県高知市長浜地区
- ・敷地面積 6707㎡
- ・敷地内北に校舎・体育館・プール
南に運動場用地 4800㎡
- ・東・西・北を山に囲まれる
南に公園，南西に住宅地が広がる



4. 現況

校舎は鉄筋コンクリート造の3階建て
各階の床面積

・1階	559.6㎡
・2階	575.8㎡
・3階	494.3㎡
延べ床面積	1629.7㎡



南の公園は手入れがされている感じが無く、寂れている。公園と運動場用地はフェンスで区切られており、自由に行き来できるようになっているため、本計画では、公園も敷地に含み計画する。



5. 計画

各世代の利用者を結びつける為に、校舎・保育園・体育館を一体的に利用できるよう、2階の床スラブで各施設を囲う様な計画にした。そうする事で、1つの施設として見る事ができる。2階スラブに光窓を付ける事で1階の採光の問題を解決した。

校舎の規模に制限があるため、保育園は増築としたが、校舎入口と保育園入口を近くに配置する事で、朝夕に関わる事ができる。また、校舎と保育園を高齢者と幼児が触れ合う、共有スペースで繋げることで各世代を結び付けれる。

敷地の南を一体的に利用できるよう芝生の中に歩道を設け、園児の遊び場と地域の公園を、明確に分断しないようにした。また、歩道は建物の淵に沿うようにすることで、建物と公園が感覚的に1つと感ずるようになる。



6. 主要図面

